

三瓶自然館における展示案内のあり方

島根県立三瓶自然館 竹内 幹蔵

三瓶自然館における展示案内の現状

三瓶自然館において人が来館者に対して解説を行っているサービスを個人向け・団体向けに分けて考えると次のことがいえる。

個人向けにあって団体向けにないサービス…「自然なんでもコーナー」

団体向けにあって個人向けにないサービス…「館内案内」、「自然観察」、「テーマ解説」

個人向けには「自然観察」に似た「北の原お散歩ツアー」と「テーマ解説」に似た「学芸員といっしょ」があるが、開催日が限定され、時間も30分程度である。

もし来館者に提供するサービスを増やそうと考えるならば、現在は機会の少ない、個人向けの「館内案内」、「テーマ解説」、「自然観察」を多く設けるべきであろう。

これら展示案内(当館では、周辺の自然をも「展示」と考えているので、「自然観察」もここでいう展示案内にあたる)の当館に適した方法を考えた。

他施設における展示案内

三瓶自然館以外の博物館等生涯学習施設において、どのような展示案内が行われているか調査した。平成16年1月に実施。海外の1施設を含む12施設(14通)の回答があった。

施設によって展示案内の形態、規模、頻度は大きく異なり、様々な事例があった。

考察

三瓶自然館において個人向け展示案内のサービスを増やすとしても、充実した内容にするためには、体制を整えるのに何年かの期間が必要である。将来どのような形態の展示案内が実施できるか、二つの方法を考察した。

「フロアガイド」…各展示室ごとに人を配置し、展示解説を行う。比較的早く実現可能。スタッフがそれぞれ得意分野の展示を担当(野外の「展示」については難しい)。ボランティアの増員、育成が不可欠。

「ガイドツアー」…「フロアガイド」と同様ボランティアの育成が欠かせないが、「フロアガイド」に比べ展示について幅広い知識が必要になるので、ある程度トレーニングに時間が必要。野外も含め、いろいろなコースが設定可能。

なおこれは、島根県立三瓶自然館研究報告第3号に掲載されている同題の報告を口頭発表したものである。